

日本産業衛生学会

第 82 号 2024 年 12 月 10 日

産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局
〒160-0007

東京都新宿区荒木町20 - 21 インテック88ビル内

TEL 03 - 3356 - 1536

FAX 03 - 5362 - 3746

e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



巻頭言



『産業衛生の実践者・研究者が担うべき課題』

大原記念労働科学研究所 井 谷 徹
主管研究員

私は、1972年3月に医学部を卒業し、大学院に入学した。大学院修了後は、産業衛生関連の研究、実践に従事し、その後、医学部教員として、社会医学系の医学生教育にも従事してきた。労働衛生関連の研究・実践に関心を持ったきっかけは、卒業当時、公害による大気汚染や水質汚染などと並んで、キーパンチャー病(より広義には職業性頸肩腕障害)、局所振動障害(白ろう病)などの職業性疾患の問題が社会的に注目されていたことが挙げられる。さらに、私が医学部を卒業した1972年は、労働安全衛生法(以下、安衛法)が施行された年であり、職域における健康問題予防に寄与できる実践、研究に従事する契機となった。

安衛法施行当時から現在まで、様々な健康問題の第一次、二次、三次予防策(以下、予防策)を立案・実行する活動が取り組まれてきた。取り組まれてきた主要な活動を列記すると；

一般定期健康診断の実施とフォローアップ活動

生活習慣病などの健康教育、健康相談、健康の保持増進措置

ストレス関連問題の予防策

重金属、有機溶剤、粉塵、騒音などの有害作業要因に起因した健康問題の予防策

作業姿勢・動作の不良等に起因した運動器関連健康問題の予防策

長時間労働・不規則労働時間に起因した健康問題の予防策

労働者の健康障害の原因の調査、再発防止 等

これらの活動は、企業規模、業種により差があるようである。一般的に言って、企業規模が大きくなるほど実施率が高くなっているが、規模の小さい企業で産業衛生活動が不十分であるとは、一概にはいえず、熱心に取り組んでいる企業も少なからずある。

しかし、各種の労働衛生関連活動の実施率をみると産業規模が小さいほど予防活動実施率が低くなっていることが多い。特に、労働者数50人未満の小零細企業では、産業衛生への取り組みが不十分な企業が多いことが危惧される。

産業衛生学会が、産業保健総合支援センター、保健所などと連携し、小零細企業労働者の健康問題の把握・改善のための活動に取り組んでゆくことが、我が国の多くの労働者の健康を維持増進してゆくために重要であると考えている。産業医部会がそうした活動の中心的役割を担っていただくことを期待している。

「合格、おめでとうございます!」 ～新専門医の抱負～ 喜びの声

2024年度の産業衛生専門医試験は38名が受験され、見事に31名の方が合格されました。

新専門医となられた先生方、この度は誠におめでとうございます。今後、大きな変化が予想される産業衛生分野のリーダーとして益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。また産業医部会へも深く関わっていただき、ともに日本の産業医学の発展に寄与していただければと思います。

あわせて、指導医の先生方におかれましては、積極的に専攻医や専門医研修の方々を受け入れていただき、多くの仲間を増やして頂ければと思います。

この度、ご承諾を得られた28名の先生方から「新専門医の抱負」のご寄稿を頂きますが、紙面の都合で、今号と次号(2025年4月発行予定)にわたって掲載いたします。

日本産業衛生学会 産業医部会長 宮 本 俊 明

『出産と受験と私』



パナソニック健康保険組合
東 蓉 子

レポート提出の見通しが立ち安心した矢先、受験申請書類を確認していたところ陣痛が始まり、2024年3月に第二子を出産いたしました。当初は研修記録の提出を目標に次年度の受験を予定していましたが、周囲の勧めもあり、産後2か月頃に受験を決意しました。娘たちが眠った夜に勉強を続ける中、昼夜逆転し心身の限界を感じることもありましたが、多くの方々に励まされ、乗り越えることができました。

熱意を持ってご指導くださった黒木先生、伊藤先生、吉田先生、杉浦先生、村野先生をはじめ、産業保健職の皆様、アドバイスをいただいた先輩方、共に学びを深めた同期の仲間、そして一番近くで支えてくれた家族のおかげで専門医に合格することができました。恵まれた環境に感謝し、幸せをかみしめる日々です。

今後は娘たちの成長とともに、母として、そして産業医として研鑽を積み、働く人々と企業に貢献できるよう努めてまいります。

『授与式当日、愛用カメラの会社の先生方と再会し笑顔の私』



三菱重工業株式会社 神戸造船所
三菱神戸病院 健康管理グループ
横 山 真 一

カメラ以外にキャンプが大好きですが、不便を楽しんだ後に帰宅して空調を付けてテレビを見るのは格別に幸せです。健康も電気も、無いと大切さに気がきます。神戸造船所は発電所を作っています。造船は?というと潜水艦になります。

コロナ禍直前の2019年4月に保健所から職域に転職したので、予知能力があると言われました。超能力は無いですが幸運には恵まれ、慣れない産業医生活の中、現場に精通したCOHの上司らから熱い支援を受けました。

社会医学系専門医は行政で取得しており、職域でちゃんと産業衛生の修練を受けたいと考え、何かと助けて下さる本社の先生に指導医をお願いしました。門外漢だった私を丁寧に指導して下さい、とても充実した2年間でした。抱負ですが、研鑽を積み、私もそのような指導医になりたいです。工場の労働者に最も身近な医師として、もっと現場を観て、人の声を聴き、次の健康危機を予知する力を習得できたらと思います。

『専門医試験受験までとこれから』



パナソニック健康保険組合
土 山 真 司

専門医試験受験にあたって要件やレポートの多さ、口頭試験の色々な意味での難しさに戸惑うこともありましたが、無事合格できて今は一旦安堵しています。

指導医を引き受けてくださったパナソニック健康保険組合産業衛生科学センターの杉浦所長、本迫先生に心から感謝を申し上げます。健保と科学センターのそれぞれ前所長でいらっしゃる伊藤先生、福田先生にも長きにわたり大変お世話になりました。

専攻医資格取得が遅くなり医師十数年目にして専門医試験初挑戦となりましたが、これを励みに今後も皮膚科臨床とともに有害業務関連を中心とした産業医活動を行っていききたいと思います。なかでも特殊健診が他社でどのように行われているか、どうすれば本当に有益な特殊健診が行えるかは以前から興味のある点で、今後私なりに関わり考えていきたいと思います。

『これからの専門医としての意気込み』



三菱重工業株式会社
名古屋健康管理グループ
服 部 南 平

三菱重工業株式会社の服部南平と申します。2019年に産業医として活動を開始してから約6年が経過し、専門医に合格することができました。この場をお借りして、指導医の石川先生と北原先生、並びに関係者の皆様へ感謝・御礼申し上げます。初期研修からいきなり産業医の世界へと飛び込んだ時には不安で一杯でしたが、日々の業務の中で徐々に経験を蓄積していったと思います。

専門医試験では経験則で判断していた部分を体系的にまとめて知識として整理をする非常に良い機会となりました。また、実務での経験を様々な業種・業態に落としこんで応用する難しさも痛感しました。そういった中で、多種多様な業種での経験を持つ受験者間での繋がり、一緒に勉強する仲間の大切さも感じました。

今回の専門医認定を一つの契機として、自己研鑽・知識のアップデートを継続していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

『今までとこれから』



株式会社朝日新聞社
コーポレート本部 労務部 (健康管理)
伊 東 明 雅

まず、ご指導いただきました武林亨先生、谷山佳津子先生に心より御礼申し上げます。受験準備の一つとして、産業医学基本講座で学び直しとネットワーク強化に努めました。会社の理解を得て滞在した北九州の日々は、大変充実した楽しいときでした。

ご縁があつて始めた産業医業務ですが、海外生活、育児など自身の経験が仕事に活きると感じるシーンが多くあります。組織を診ることに深い関心をもつようになり、社外を含め、多職種との連携や関係者との協働に喜びを感じています。

アルコール関連問題対策の推進、眼の健康障害防止～視覚障害者の就労支援、そして女性労働者の健康確保とキャリア支援が関心事です。関連学会関係者と交流しながら社内外の取り組みを推進していきます。

「健康・くらし・ジャーナリズム」のバランスをどうとるか、悩みながら判断を重ねています。今後、メディアにおける産業医活動を通じて、社会課題の解決に寄与したいと考えています。

『産業衛生専門医として』



株式会社日立製作所
日立健康管理センタ
山 田 耕 太 郎

この度、産業衛生専門医試験に合格することができました。指導医の山本修一郎先生を始めご指導いただいた多くの先輩産業医に感謝申し上げます。産業医大以外出身で卒後3年目から産業医の道に進んでいくことは珍しく不安や孤独を感じることもありましたが、専攻医研修を通じて知り合った同僚産業医と切磋琢磨できたことは自分にとって幸運であり大きな財産となりました。

産業医を始めたころは専門医試験に合格する頃には何でも自信をもって100点の対応ができるようになると考えておりましたが、いざ専門医になって思うことはまだまだ分からないことが沢山あるということです。しかし日々情報を収集し悩みながら自分の判断が正しかったか、もっと良い方法はなかったか自省し続けることこそが専門医に必要な姿勢であるのだと思います。

引き続き職場で信頼される産業医になれるよう研鑽に励むと共に、今後は専門医として自分が今まで教えていただいたことを後進に伝えていくことが出来れば幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

『産業衛生専門医としての抱負』



オリンパス株式会社
宮 田 依 未 子

この度、産業衛生専門医に無事に合格することができました。社会医学系専門医および産業衛生専門医の修練過程において、多大なるご指導を下さった指導医の内田和彦先生をはじめ、今までご指導下さった先生方、試験勉強をサポートしてくれた大学同期や仲間から心から御礼申し上げます。

臨床から産業衛生の世界に来たばかりの頃は本当に右も左もわからない状態で、事業場の先生方、医療職や安全衛生の皆様を支えられながら日常業務をこなしていました。そのような状態から約5年間、悪戦苦闘した日々の積み重ねが合格につながったのだと思っています。

そして合格は嬉しいものではある一方、何かが特別に変わるものではなく、日常業務の中でまだまだ悩むことも多く未熟さを実感しています。ここからまた研鑽を積み自身が成長し、より良い産業保健活動ができるよう精進していきたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

『これまでの感謝とこれからの抱負』



株式会社 YK MEDICO
長 谷 川 渉

この度、産業衛生学会専門医資格認定試験に合格することができました。これまでご指導いただきました、神栖産業医トレーニングセンターの田中完先生、産業医科大学の上野晋先生、そして今回主指導医としてご助言いただきました、小池渉先生、その他関係者の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。研修記録の作成や専門医試験の勉強を通じて、これまで数年間の実務経験を振り返り、知識を整理し体系的に学ぶ良い機会となりました。

今回専門医を取得しましたが、今後も変わらず自己研鑽、関係者とのコミュニケーション、専門家としての助言を通して働く人の幸せのために精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



富士通株式会社
藤 瀬 瞳 実

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格いたしました。指導医の大久保浩司先生ならびに、これまでご指導くださった産業医科大学の先生方に心より感謝申し上げます。長い時間勉強するのは久しぶりでしたが、一緒に勉強してくれた同期がいたからこそ乗り越えることができました。みんなで合格することができて大変嬉しく思います。

試験に向けて改めて網羅的に勉強し、専門医として必要な知識やスキルを身に着けることができました。現代社会の技術革新や働き方の多様化により健康に関する課題が複雑化していますが、それらに対応できる産業医になるため、今後も継続して学習し続けていきたいと思っています。これまでは嘱託産業医を中心に活動してきましたが、令和6年度より専属産業医として勤務しています。産業衛生専門医としてどう会社に貢献できるか考え、精進していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

『産業衛生専門医としての抱負』



日本アイ・ビー・エム株式会社
垣 本 啓 介

この度は産業衛生専門医として諸先輩方に迎え入れて頂き大変嬉しく思います。また、これまで社会医学系専門医取得過程も含めて多くの先生方に温かい御指導を賜ったことにこの場をお借りして感謝申し上げます。

産業衛生専門医として担当事業場での産業衛生活動はもちろんのこと、常に広い視野と高い視座を持ち、担当事業場を越えて貢献できるように一層精進してまいります。変化の激しい社会の中で、産業医に求められる役割も変わり続けていると感じております。特に近年では労働者の多様性や、働く場における「公正性」についても注目されるようになってきました。私自身は日本の社会制度の中で周縁化されやすい外国籍やLGBTQ+、障がいを持つ労働者が包摂されるよう自分にできることを積み重ねていきたいと思っています。

産業医としてまだまだ至らぬ点も多くございますが、引き続きのご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

『日本産業衛生学会専門医試験を振り返って』



三菱電機株式会社
神戸製作所
藤 本 俊 樹

この度、産業衛生学会専門医資格認定試験に合格いたしました。これまでご指導いただいた先生方に心から感謝申し上げます。試験への準備を進める中で、日々の活動や今までの経験を丁寧に振り返ることができたことは大変有意義で、自身の目指す産業医像と実際の活動に矛盾はないか、もう一度やり直せるならどう対応するか、といった自身を見つめ直す機会となりました。また、経年で見ると自身の成長を感じることができたことも良い気づきであり、今まで関わってきた多くの方々の支援や指導があつて、今の自分があるのだと強く感じました。

専門医取得は素直に嬉しいですが、産業医人生のひとつの過程と認識し、企業や社会に価値が出せるような産業医を目指して、さらなる研鑽を積みたいと思います。

最後になりますが、試験に向けて同期と切磋琢磨し、合格の喜びをみんなで分かち合えた経験はとても貴重で、改めて「同期っていいな」と思いました。今後も同期、仲間を大切に、助け合って活動をしていきたいと思っています。

『日本産業衛生学会専門医としての抱負』



株式会社 PhileLife
永 田 英 恵

産業医として歩み始めた頃には遠い道のりだと思っていた専門医資格を、この度無事に取得でき、大変嬉しく思います。産業医の世界へ温かく迎え入れ、常に惜しみないご指導と励ましをくださった浜口伝博先生、平野井啓一先生、三宅琢先生に心より感謝申し上げます。また、これまで多くの先生方に支えられ、貴重なご助言をいただきました。さらに、産業医として携わらせていただいた企業の皆様のおかげで、日々多くの経験と学びを得ることができました。この場を借りて深く感謝の意を表します。

専門医試験に向けた準備を通じて、これまでの経験と知識が結びつき理解が深まる一方で、自分の未熟さも痛感しました。社会が急速に変化する中で、どのような産業医が働く人々や企業、そして社会全体の健康に貢献できるのかを問い続け、専門医としての責任を果たしながら邁進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

『産業医としての新たな一歩』



NTT 東日本
健康管理センタ
黒 岩 由 紀

この度、産業衛生専門医に合格し、新たな一歩を踏み出すことができました。

これもひとえに、指導医である松岡雅人先生、故菊池悟先生、職場巡回に同行させて頂いた山本健也先生、三木猛生先生のご指導とご支援のおかげでござい。また、家族や友人、同僚の皆様にも多大なるご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

臨床から産業医へと転向し、覚えることが多く大変でしたが、試験に向けて体系的に勉強することで、知識を深めることができました。また、社外での実習を通じて自身の経験の幅が広がり、実践にも役立てることができております。

まだまだ未熟な私ですが、皆様からのご指導とご支援を賜りながら、成長していきたいと考えております。故菊池先生が常々おっしゃっていた「ベストバランスを志向する、自分の頭で考える、相手の立場に立って考える」という教えを大切に、今後も努力を続けてまいります。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

『専門医試験を通じて』



ダイハツ工業株式会社
銭 谷 亜 弓

このたび、産業衛生専門医試験に合格することができました。指導医の先生方をはじめ、これまでご指導いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

合格できたのは、1つ目に指導医の垣内先生にたくさんご指導いただいたこと、2つ目に受験メンバーと定期的に勉強会を実施できたからだと感じています。垣内先生には、疑問点についてディスカッションする時間を設けていただき、苦手分野を潰していくことができました。また受験メンバーとの勉強会では、定期的に進捗報告やディスカッションの練習を行いました。仕事や育児後の勉強において、モチベーション維持が私の課題でしたが、子供にミルクをあげながら勉強会に参加するメンバーもいて、「自分も頑張らないと!」と強く励まされました。

まだまだ未熟ではありますが、一步一步地道に学び、研鑽に励んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

『専門医までの道、指導医への道』



東海大学 医学部
基盤診療学系 衛生学公衆衛生学
中 澤 祥 子

念願の産業衛生学会専門医を取得できました。産業医を始めたのは日医認定産業医講習会に当たり、産業医資格を得たことがきっかけでした。まさか自分が産業医学を専門にすることは想像していませんでした。しかし予防医学の面白さ、働く人がずっと元気に仕事できるように支えるという産業医の真髄に触れ、悩みながら進んだからこそ今があります。この面白さに引き込んでくださった指導医の浜口伝博先生、先生のご紹介で出会った今の上司の立道昌幸教授、東海大学の研究班の先生方、勉強会の同志などたくさんの先生のおかげです。

専門医試験の面接で指導医になり学会に貢献するという大きなビジョンを宣言したため、専門医をマイルストーンとして、今後指導医の器になるべく更に研鑽を積みま。今は大学で研究・教育を行っていますので、産業医学研究をたくさん行い、その面白さを伝え、後輩を育成し、働く人と会社全体を幸せにするような人間になります。

専門医試験の面接で指導医になり学会に貢献するという大きなビジョンを宣言したため、専門医をマイルストーンとして、今後指導医の器になるべく更に研鑽を積みま。今は大学で研究・教育を行っていますので、産業医学研究をたくさん行い、その面白さを伝え、後輩を育成し、働く人と会社全体を幸せにするような人間になります。

『楽しかった！専門医試験！』



株式会社IHI
寺 道 紘 毅

指導医の先生方をはじめ、多くの方々に支えていただき、専門医試験に合格できました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

専門医試験の感想を一言で言うと、「超楽しかった!」です。レポート作成では社会医学系専攻医の頃からの経験を振り返ることができ、内省の楽しさがありました。試験勉強も、先輩方の多大なご支援と、一緒に勉強してくれた同期受験者のおかげで、常に楽しく勉強ことができました。こんなにやるのかというくらい勉強会をしましたが、その全てがワイワイして楽しく、青春を思い出しました。試験当日も、受験生全員が仲間のような雰囲気があり、部活の大会に臨むような感覚で楽しく2日間を過ごすことができました。

試験合格がゴールではなく、専門医になった今がスタートだと考えております。専門医の名に恥じぬよう、諸先輩方の背中を追って日々精進していきたいです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

『令和6年度 中央労働災害防止協会 緑十字賞 ご受賞おめでとうございます!』

今年度は4名の部会員の先生方が受賞されました。



『緑十字賞受賞に寄せて』

(関東地方会)

三菱電機株式会社 人財統括部 井 上 義 崇

この度は緑十字賞を賜り、これまでご指導をいただいた多くの関係者の皆様には、あらためて心より感謝申し上げます。

私は産業医大卒業後20年間は、主に九州北部の大学病院をはじめとするいくつかの医療機関で麻酔・集中治療領域に携わっておりました。縁あって関西にある三菱電機の高周波光デバイス製作所に専属産業医として赴任したのがこの分野でのキャリアの第一歩でした。当時三菱電機には専属産業医として産業医大の卒業生が10名程在籍しており、多くは卒業年次では後輩にあたりますが、諸処アドバイスを頂いたおかげで、何とか日常業務をこなすことができたといまでも有難く思っております。その後数年して東京の本社に赴き、専属産業医30名、非常勤の先生を加えると50名以上の、様々なバックグラウンドを持つ産業医と共に、会社全体のお世話をするようになりました。当時はストレスチェック制度の導入等で難しい課題もありましたが、各方面から様々なご意見をいただきながら全社的に統一したシステムを導入することができました。その後、健康診断項目の整理や健康情報の取扱い規定の制定、職場環境基準改定など全社的な対応を要する事項について、産業保健のあるべき姿を模索してきました。コロナ対応では、今更ながら医学的知見自体の限界を感じる中、従業員対応はもとより会社(社会)への貢献のあり方を考えさせられる毎日でした。残念ながら三菱電機ではその頃、労務問題や品質問題で時の社長の首が飛ぶ事態にも直面しました。実は私も当時会社から緑十字賞に推挙いただいたことがありましたが、「ブラック企業の統括産業医が緑十字賞にはどうか…」との事で却下されました。今回、改めて三菱電機及び電経連(電気・電子・情報通信産業経営者連盟)からご推挙いただき受賞に至ったのは、何よりも会社関係者の組織風土改革への努力の賜物と思っております。製造業での、何事も均質性を求める組織文化から、創造性を育むDiversity, Equity & Inclusionを目指す経営への変革は、産業医にとっても付加価値を生み出す重要な土壌と考えます。この社会の流れの中で、更なる産業保健の発展には法令レベルでの見直しが必要ではないかと感じる課題も散見します。私自身は日暮れて途遠しの感はありますが、今後とも微力ながら医学をベースとして働く人々の幸せに貢献できればと願っておりますので、産業医部会の先生方にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



三菱電機 人財統括部 安全健康グループメンバーと共に



『緑十字賞受賞によせて』

(東北地方会)

東 北 大 学
環 境 ・ 安 全 推 進 セ ン タ ー 黒 澤 一

このたび、緑十字賞の受賞のお知らせをいただきました。この賞は、中央労働災害防止協会が、長年にわたり我が国の産業安全又は労働衛生の推進向上に尽くし、顕著な功績が認められる個人及び職域グループ等に対しての表彰とうかがっています。受賞に値する尽力があり、功績が顕著であったかは心許ないのですが、表彰いただくこと自体を大変うれしく存じております。関係各位には深く感謝申しあげる次第です。

小生は産業医になる前には、呼吸器内科医であり、また呼吸器患者さんのリハビリテーションを専門にするリハビリテーション科医でもありました。縁あって、国立大学が独立法人化されたタイミングで東北大学に産業医ポストが設けられ、その任についた、というのが事の始まりです。臨床とのかけもちで始めたわけですが、2010年に産業医の部署が保健管理センターから独立して環境・安全推進センターとして発足し、同時に医学系研究科に産業医学分野と称する教室も教授として開設させていただきました。以来、臨床からは離れて、大学の産業医としての実務のほかに、教育と研究および産業医の育成や地域の産業保健への貢献を任務とするようになり、現在にいたっています。

産業医になって初めの頃は、大学のポストに緊急避難的についた感じで、右も左もわからない状況でした。しかし、知らず知らず、20年以上経過した今も産業医を続けており、自分が一番びっくりしています。続けてこられた理由は様々ですが、産業保健の仕事そのものをよい仕事だとたびたび感じたことは事実です。大学やいろいろな企業の労働現場に赴き、元気な方々の安全と健康に関心を寄せ、けがや病気を未然に防ぐ1次予防、そして2次および3次予防的な仕事をするようになり、その魅力にすっかり取り憑かれてしまったのでしょう。

これまで、多くの方々にご指導をいただき、ご支援ご協力を賜りました。今回の賞をいただけるようなご評価をいただきましたことは、ひとえに、そのお陰かと存じております。ご推薦をいただいた皆様には厚く御礼を申し上げます。皆様の益々のご多幸とご健勝を祈念申し上げ、受賞に寄せたご挨拶とさせていただきます。



『緑十字賞を受賞して』

(関東地方会)

日本冶金工業株式会社 平 貢 秀
川崎製造所 健康管理室

この度、緑十字賞をいただき、大変光栄に思っています。

私は1992年に産業医科大学を卒業し、産業医大病院第2内科(循環器)と東芝病院で臨床研修を終え、関連会社も含めて約4000人の東芝富士工場(エアコン工場)(現日本キャリア株式会社)で産業医生活をスタートしました。その当時は専属産業医で関東にいる先輩は10数人ほどで産業医はマイナーな存在でしたが、先輩は(浜口伝博先生、森晃爾先生、堀江正知先生など)皆優秀な人達で、多くの事を学び相談させていただき感謝しています。

東芝では全社を見て回ることができたので、多くの有害業務、化学物質について、実際の業務を通じて学ぶことができました。東芝富士工場には職場の人望のある人たちが代表となって集まったできたメンタルヘルス推進委員会があり、各職場と連携がうまくでき、生の情報を基に全体的なメンタルヘルス施策に落とし込むことができました。また毎年、全社員のストレス度を調べ、その結果を部長会などで報告し、各職場に対しての問題点や改善策を参加者が遠慮せず話し合いを行なっていました。例えば、ある部長が「Aさんが部長になってからストレスが増えているよ、Aさんが原因じゃない?」と言えば「そうか俺が原因なのか、どうしたらいい?」など普通に話し合えたことが改善に大きくつながり、風通しがいい風土が重要だと思った良い経験でした。その他、在任中に外資との合併があり、極短期間での管理職の大量リストラを経験し、残れる人残れない人それぞれのストレス、心理変化に対応したことはその後のメンタルヘルス対応に大きな財産となりました。このように東芝での産業医生活の開始は、ありとあらゆることを学ぶことができそれ以降の産業医の基礎ができたと思っています。

その後、株式会社ベネッセコーポレーションでは女性社員の心理・特性を学びました。現在は男性社員中心の鉄鋼業である日本冶金工業株式会社で産業医を続けています。労災の初期対応や、脳卒中や心筋梗塞なども起こり気管挿管、AED心肺蘇生などすることもあります。

その他現在、神奈川労務安全衛生協会での各種作業主任者、衛生管理者の講師や保健対策委員会の委員長として精鋭の専属産業医の人達と活動しています。また、川崎南地域産業保健センターの相談員として地域貢献と、医学部の学生や保健師の大学生の産業現場実習も行い、産業医や産業保健の面白みを伝えています。



医学部学生実習にて



『緑十字賞を授与されて』

(関東地方会)

群馬大学 藤 田 晴 康
医学部 公衆衛生学

このたび荣誉ある緑十字賞を頂戴し誠に光栄に存じます。これまでご指導くださった諸先生、諸先輩、現場でお世話になった産業衛生スタッフ、研修会主催者の皆様に心より感謝申し上げます。

私は1979年に群馬大学医学部を卒業後、国立公衆衛生院(現、国立保健医療科学院)にて公衆衛生全般の研修を受けましたが、その後母校の第二内科を経て臨床医として市中病院に勤務しておりました。2003年、群馬産業保健推進センター(現、群馬産業保健総合支援センター)のセンター長、鈴木庄亮先生から専属産業医の職を勧めていただいたのが労働衛生分野に入るきっかけとなりました。専属産業医の勤務を離れた後も、嘱託産業医と産業保健関連の研修会講師として、病院勤務医と並行してこの分野の活動を続けております。

新人産業医として未熟な時代に、先輩産業医の先生方や衛生管理者の方々をはじめ現場の皆様から貴重なご助言をいくつもいただいたことを懐かしく思い出します。産業医の訓練は病院での勤務以上に On the Job Trainingの連続でした。

現在では、母校の群馬大学医学部公衆衛生学教室ともご縁をもちまして、医学部学生、大学院生、学内外の医学研究者の先生方に特に調査研究に関わる統計学的データ解析のお話もさせていただいております。また、2009年からは作業主任者技能講習の講師もお引き受けすることになりました。そのため、特定化学物質・有機溶剤・酸素欠乏・石綿・鉛・金属アーク溶接という広い分野で化学物質や健康障害に関する膨大な学習が必要となり苦労しましたが、その一方、ふだんお目にかかる機会のない工学系の先生方と講師のお仲間として交流ができるようになったのはありがたいことでした。

今後も、産業医の実務とチューター、調査研究の解析面でのお手伝いなど、この分野に少しでも貢献できるよう精進を重ねてまいります。今回の受賞に関しまして関係者の皆様に重ねて御礼申し上げるとともに、今後とも皆様の変わらぬご指導をお願いする次第です。



有機溶剤の健康障害について講演中の筆者 2024年10月

『令和6年度 厚生労働大臣「功労賞」ご受賞おめでとうございます!』



『厚生労働大臣功労賞受賞に寄せて』

(関東地方会)

株式会社MOANA土肥産業医事務所 土 肥 誠 太 郎

令和6年度「安全衛生に係る優良事業場、団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰」において、長年、労働安全衛生に尽くし、日本の安全衛生水準の向上・発展に多大な貢献をした個人に与えられる「功労賞」を頂き、大変光栄に存じます。このような栄誉ある賞を頂けたのは、学生時代を含め私を指導してくださった先生方のご尽力、産業医となってから共に研鑽してきた多くの仲間及び同僚の産業医・大学の先生方・産業保健看護職・産業衛生技術専門職の皆様のご支援によるものと、深く感謝申し上げます。

振り返りますと、1984年に産業医大を卒業し、臨床(第二内科学教室)と研究(放射線衛生学教室)を経て、1991年に初代産業医実務研修センター長になられた高田和美先生の後任として、三井石油化学工業(現三井化学)岩国大竹工場の専属産業医となりました。この時期に同社の健康管理システムを構築稼働させたこと及び今までの治療と基礎研究の知識と経験を活かし動脈硬化性疾患の発症をゼロにしようと考えたことが産業医の始まりでした。さらに2001年に三井化学(株)本社健康管理室長・統括産業医となり、健康管理だけでなく化学メーカーにおける化学物質を中心とする有害要因のばく露防止対策を実践してきました。同時に三井化学における労働衛生を経営システムに明確に組み込み、三井化学の事業所のみならず国内外の関係会社にも労働衛生を展開する仕組みを統括産業医として築き上げて来たと自負しています。また、厚生労働省の労働衛生関連の各種検討会に参加させて頂き、日本産業衛生学会等においても多くの参画の場を与えて頂きましたことは、大局的立場で労働衛生を考え自己研鑽を行う上で非常に有益でした。

今までの経験から、産業保健(労働衛生)は、企業における機能戦略として安全・人材・品質戦略等と同様に、経営システムに組み込まれるべきものですが、産業保健を担うものに健康経営と銘打って華やかに健康施策を行わせて外面的な企業価値を向上させようとするのは、産業保健の生きる道ではないと考えます。本当の産業保健や健康経営とは、社員の幸福は何かを考え、社員の健やかを保ち続ける努力を行い、社員の健康を重視し尊重すること(健康重視経営)だと考えています。

今、小さな産業医事務所を立ち上げ、心機一転、健康重視経営を実践したいと考えております。今後も、ご指導を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。



功労賞表彰式の様子

産業医部会フォーラムのご案内

『第 98 回日本産業衛生学会 産業医部会フォーラムのご案内』



各務竹康



深井恭佑

福島県立医科大学
医学部 衛生学・予防医学講座

(東北地方会)

各務竹康

(近畿地方会)

株式会社リードウェル 深井恭佑

第98回日本産業衛生学会〔2025年5月14日(水)～5月17日(土)、仙台国際センター他〕において、下記の通り産業医部会フォーラムを開催いたしますので、ご案内申し上げます。

■ 産業医部会フォーラム (日本医師会認定産業医単位 申請予定)

期 日 : 2025年5月17日(土) (予定)

テーマ : 高齢社会における地域保健・職域保健連携のありかた

演 者 相川 稜太 先生 (福島県労働保健センター)

南 紗也加 先生 (パナソニック健康保険組合 汐留浜離宮健康管理室)

高安 令子 先生 (小田原保健所)

田中 完 先生 (神栖産業医トレーニングセンター)

わが国における保健事業は、乳幼児から高齢者まで、様々な制度を根拠に実施されてます。働きざかり世代においては、労働安全衛生法、健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律などで、様々な保健事業が制度化されておりますが、その目的、対象者、実施主体、事業内容などがそれぞれ異なっているため、制度間のつながりが十分とはいえず、保健事業の継続性が途絶えること、地域全体の健康課題が見えにくいことなどが、指摘されておりました。

職域保健においては、労働安全衛生法などで健康診断の制度が整っており、健康管理が受動的に享受できますが、退職後は能動的に健康管理を行う必要があります。現在は健康情報が引き継がれないため、受け入れ側も苦慮している現状があります。また、働いている間も、転職などで所属事業所が変更になった場合に同一保険者であっても健康情報が連続しない問題などもありました。

今回のフォーラムでは、地域保健、職域保健様々な視点より現状の問題について語っていただき、今後に向けた課題の共有が図れたらと考えております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

法改正トピックス

**『自律型化学物質管理への移行 その6』
～ 自律管理が始まって～**

慶應義塾大学 名誉教授 大 前 和 幸

1. 法令改正における健康リスクアセスメントとマネージメント

事業者の義務の拡張と技術職に大きな作業と責任を求めた今般の法令改正では、産業医は細部事項に「医師には産業医を含む」と記載があるのみであった。しかし、本シリーズのその5に示したように、産業医に求められる仕事の質と量は格段に増加した¹。

リスクアセスメント(RA)とリスクマネージメント(RM)の原義は文献2を参照していただきたいが²、今般の法改正に基づく未規制産業化学物質の健康RAとRMの全体像を図に示した。国が個人曝露リスク評価値の基準値となる濃度基準値を策定し、事業場の化学物質管理者、衛生管理者、衛生工学衛生管理者、作業環境測定士等の労働衛生技術専門チームが、様々な技術を用いて作業者の曝露RAを実施する。そして、事業者が濃度基準値等の情報と曝露RAの結果を比較する等の手法によって作業者の健康リスクを評価し、健診の実施や曝露環境改善を実施するというスキームである。濃度基準値策定が一段落した後は、早期に見直す必要のある物質の濃度基準値の改定作業を開始すべきである。

2. 今般の化学物質の自律管理への移行に対する批判

企業や産業衛生技術系や医師(産業医)等からは、「厚労省は化学物質管理から逃げて民間に押しつけた」、「自律管理に技術的に対応できない」、「やるべきこと、できないことが多い、費用がかさむ等の理由で、実現現場では何もやらなくなり、かえって健康リスクが増す」、「小規模事業場では自律管理は無理である」という類いの批判がある。誤ってはいない批判だろうが、鳥瞰的に立ち返ってほしい。今までの化学物質管理が本シリーズの1回目の図1に示してある³。特別則とRA等実施義務物質の674物質が管理対象であったものが、今般の改正で約2900物質にRA等とRMの実施義務、数万物質にRA等努力義務、皮膚吸収等がないことが明らかな物質以外は保護具着用義務が課された。筆者は、5万とも7万ともいわれている産業化学物質のすべてを国家が管理するのは不可能かつ不健全であり、いままで放置されていた95%以上の産業化学物質を対象とした今回の改正は大きな前進と考えている。批判者が「674物質のみを管理していれば良い」と考えているわけではないと信じている。

ジクロロプロパンによる胆管がん発生事業場で産業医が未選任だったことに象徴されるように、1972年に労働安全衛生法により産業医選任が義務づけられた38年後の2010年の産業医選任率は87%に留まり⁴、1975年の作業環境測定法で測定義務のある事業場で39年後の2014年に有機則で18%、特化則で10%が作業環境測定を実施していない⁵。半世紀近く経過した法令ですらこの有様であり、今般の改正内容が早期に達成されることは「夢のまた夢」ではあるが、方向性に誤りはないと考える。法令の視点と実現可能性は別個の立場で議論すべきである。

3. 誤解されがちな注意点

「厚労省が数理モデルとして提示しているCREATE-SIMPLE(C-S)⁶を用いてRAを実施しなければならない」というのは誤解である。C-Sは数理モデルの一例であり、事業者が国内外や自社考案モデル等、どの数理モデルを採用するかは事業者の自律判断である。C-S利用の場合でも、取扱量の歩留率が99%で曝露に貢献するのは1%との事前のデータがあれば、「利用目的は曝露リスクアセスメント」であることから、1%分を取扱量として入力するというような自己判断は可能である。

化学物質管理に係る専門家検討会からは物質の測定法が公開されるが、「この測定法で測定しなければならない」というのは誤解である。これは測定法の一例であり、科学的であれば事業場の労働衛生技術専門チームは任意の測定法を採用しても良い。例えば捕集法に未記載のパッシブサンプラーを使用することに問題は無い。

4. 改めて「産業医」とは

「工場医」、「医師である衛生管理者」等の名称を経て、1972年に労働安全衛生法により「産業医」が規定され7項目の職務が明確化され、近年ストレスチェック関連と長時間労働関連の面談が追加された。これらの職務の内容で、「産業医」という法的名称を名乗って企業で活動し報酬を得ている医師がなすべき仕事の優先順位は、

- 第一、業務起因性疾患(対個人および集団)の予防・早期発見と措置
- 第二、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の早期発見・予防介入・健康増進
- 第三、その他

と考える。今般の法令改正による自律管理型化学物質管理は、直接業務起因性疾患に関するものであり、化学物質のメーカーやユーザーである事業場に雇用されている産業医は、専任であれ嘱託であれ、特別則による法令準拠の仕事と今般の改正による自律型化学物質管理に関わる産業医の仕事の両方をこなさなければならない。

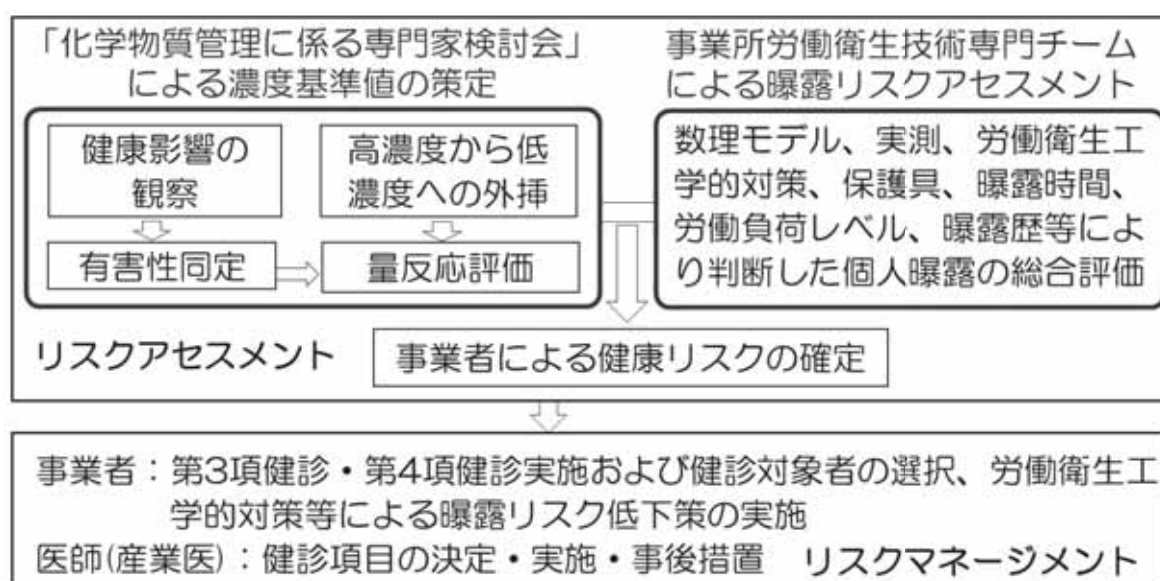


図 今般の法改正による産業化学物質の健康リスクアセスメントとリスクマネジメント

文 献

1. 大前和幸. 自律型化学物質管理への移行その 5. 産業医の役割の増大.
日本産業衛生学会産業医部会会報 2024; 80: 6-7.
2. U.S. National Research Council Framework for Risk Assessment (1983)
https://riskcom.net/framework/health_science/nrc.shtml
3. 大前和幸. 自律型化学物質管理への移行その 1. 日本産業衛生学会産業医部会会報 2022; 76: 17-18.
4. 現行の産業医制度の概要
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12602000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Roudouseisakutantai/0000164723.pdf
5. 職場における化学物質等の管理のあり方に関する検討会 第一回会議資料2-4. 2019
6. CREATE-SIMPLE. https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/ankgc07_3.htm
7. クリエイト・シンプルを用いた 化学物質のリスクアセスメントマニュアル.
https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/pdf/CREATE-SIMPLE_manual_v3.0.2.pdf
8. CREATE-SIMPLE の設計基準
https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/pdf/CREATE-SIMPLE_design_v3.0.pdf

■産業医部会会報編集委員会よりお知らせ

2024年5月に日本産業衛生学会産業医部会 化学物質管理WGから、「化学物質リスクアセスメントに基づく健康診断の考え方に関する手引き」が発行されました。是非、職場でご活用ください。

URL https://www.sanei.or.jp/files/topics/recommendation/tebiki_ra-kenshin-chemicals_202405.pdf



【手 引 き】

産業医部会報では、皆さまから「自律的化学物質管理」に関連する疑問や質問、コンテンツの要望などを受け付けておりますので、質問フォーム(URL / QRコード)から是非お問い合わせください。

URL <https://forms.gle/tv9netbaBaYPWa7q8>



(文責：池上 和範) 【質問受付フォーム】

産業医アソシエイトコースのご案内(第1報)



(近畿地方会)

企画運営委員長 深井 恭佑
(株式会社リードウェル)

この度、産業医部会主催の新たな研修会である産業医アソシエイトコースを企画しましたので、ご紹介します。

本コースでは、参加者が、産業医としての専門性を認識し、問題解決への考え方や取り組み方を学ぶことで、単に教科書的・機械的に業務をこなすだけでなく、産業医実務の奥深さや面白さを体験することができます。本コースが、日々の産業医業務をより良いものにしたい、さらに学びを深めたいといった参加者のモチベーション向上につながってほしいと思います。

ご参加をお待ちしております。

(目的) 「プロフェッショナルな産業医」になるために必要な知識、コンピテンシーの取得のきっかけづくりと参加者同士の交流

(対象) 産業衛生専攻医、産業医歴の短い医師(産業医歴5年以内、日本産業衛生学会員に限る)

- (特徴)
- ・産業医の実務では、専門的な知識だけでなく、様々なコンピテンシーも求められます。本コースは、それらのコンピテンシーを磨くきっかけづくりになります。
 - ・グループワークの課題を参加者から募集することで、実務で抱える悩みの共有や実際に現場で起きている問題への対応を実際に体験できます。
 - ・同じ境遇の参加者や本コースの実行委員(産業衛生専門医)との交流を通じて、多様な意見交換やアドバイスをを得ることができます。
 - ・産業保健に関する法改正や最新情報についてアップデートする機会になります。

(プログラム)

講義、グループワーク、実務相談会

(今後のスケジュール)

第1回産業医アソシエイトコース

日 時：2025年6月28日(土)10:00～18:30

場 所：新大阪丸ビル新館

開催方法：現地開催(オンライン開催等は実施しません)

受講料：産業医部会員 12,000円 非部会員(学会員の医師)18,000円

定 員：36名(募集人数を超えた場合は、参加をお断りする場合があります)

応募スケジュール

- ・応募開始 医部会員：2025年3月24日(月)9:00から
非医部会員(医師かつ学会員であること)：2025年3月31日(月)9:00から
- ・応募締切(部会員/非部会員を問わず)：2025年5月9日(金)17:00まで

詳細は産業医部会ホームページにある産業医アソシエイトコース(産業医Aコース)のページ

<https://sangyo-ibukai.org/associate.html> をご確認ください。

シリーズ 私たち頑張ってます！



『頑張っています』

(四国地方会)

高知医療生活協同組合 岡田 崇 顧

産業医部会報には5年ぶりの投稿となります。高知医療生活協同組合の岡田崇顧(おかだたかみ)と申します。2014年に産業医科大学の卒後修練課程を終え、出身地である高知に戻り、嘱託産業医活動を中心に行っております。

現在は病院(2次救急、114床)に所属しており、内科や外科、整形外科のDrと同じ医局内にテーブルがあります。医局のホワイトボード(月間スケジュール)には、MK、ラパコレなどの手術予定が赤色のマーカーで、私が出かけていく嘱託産業医事業場名が青色のマーカーで書かれています。朝会では、ホワイトボードの内容が確認されます。医学部の学生が臨床実習で来ていた時の朝会で、「今日は〇〇の手術があります。岡田先生は、午後〇〇(ショッピングモール)に行かれます。」とスケジュール確認され、学生は「あの先生は、何の買い物に行くのか?なぜ、こんなことが朝会で報告されているのか?」と不思議に思われたということがありました。

わたしの場合、当直業務も担当しているので、体力的には定時勤務の先生と比べると負担が大きかったり、勤務医なので開業する形と比べると金銭面での恩恵が少なかったりというデメリットはあります。一方、感染性疾病の流行状況を肌感覚で把握しやすい、臨床能力を維持向上させやすい環境などメリットも感じています。

専属産業医でも、労働衛生機関医でも、独立系産業医でも、大学研究室に所属する形でもないのですが、地域における産業保健を普及していくためには重要な立ち位置になっていくのではないかと考えています。しかしながら現状は、医療機関が産業医や産業衛生専門医を求人募集するということは一般的ではありません。どうやって着任するかなど課題があります。

中小企業や地方における産業保健活動は、遅れていると言われることがあります。それぞれの事業場、それぞれの人にとってスタート地点や前提条件は違うけれど、作業環境改善、作業改善、健康改善をコツコツと進めていくことが大事と考えています。高い目標は立てずに、「少しでも改善が進んでいると感じられるならOK」とそんな気持ちで取り組んでいます。

社会医学系専門医協会と産業衛生学会の指導医資格を取得しました。自己研鑽に努めるだけでなく、後進の指導育成にも取り組みたいと考えています。引き続きのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

地 方 会 か ら の 報 告



『東北地方会第28回産業医協議会へ参加して』

(東北地方会)

公益財団法人 岩手県予防医学協会 茂 木 隆

令和6年7月26日(金)と27日(土)の2日間、第83回日本産業衛生学会東北地方会が開催されました。「産業保健の未来展望」をメインテーマに、東北大学医学部開設百周年記念ホール星稜オーデトリウム講堂で開催され、一般演題、特別講演、各部会行事が行われました。1日目は午後から事業所見学(産業医実地研修)があり、車載用蓄電池の工場を見学しました。産業医や産業保健職などが参加し、普段目にすることのない製造工程やそこで働く人々を見ることができました。夜には会員が多数集まり懇親会が開催され、親睦を深めております。産業医協議会は、2日目の最後に行われた各部会行事の1つとして開催されました。

産業医協議会は名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学分野の鈴木貞夫教授の「HPVワクチン接種の意思決定 - 名古屋スタディより ~働き盛りの女性をがんからまもる」という演題のご講演をいただきました。HPVワクチンについてはそれなりの勉強をしているものの、あまり関心のなかった私のような医師も多かったのではないかと思います。惹き込まれるような内容の講演に聴き入り、その認識を改めた方もまた多かったのではないかと思います。この中で名古屋スタディの研究開始の経緯や、その後の同じ公開データを用いて異なる結果を出した他論文の存在についてのことなど、わかりやすい説明により多くの理解と納得が得られたものと思います。

疫学にも長く関わりながら、あらためて「エビデンス」を積み重ねることが重要であると思に至る講演でした。この講演の抄録を読み直すと「エピソードはいくら集めてもエビデンスにはならない」という一文があり、このことは心に深く刻むべきことと強く感じます。また、「個人の意思決定には、偏りのない情報が必須」、「将来に悔いを残さない選択」という言葉で締めくくられていますが、それを実感できるような講演であったと思います。鈴木貞夫先生には、深く感謝いたします。

東北地方会の産業医協議会は、地方会2日目の土曜日15:00過ぎから開催されるため、診療を終えた地元医師が多数参加できるものであり、非常に良い情報収集、意見交換の場になるものと思います。今後も良いテーマの講演を期待しています。

部 会 員 か ら の お 便 り



『 繋ぐ、新たな時代へ 』

(北陸甲信越地方会)

西日本旅客鉄道株式会社
金沢健康増進センター 西 澤 依 小

北陸新幹線が初めて石川県金沢市までやってきたのが2015年、そして今年2024年3月には福井県敦賀市まで延伸開業しました。裏日本と呼ばれ遠慮がちに暮らしていた沿線の地域も注目を浴びるようになり、まるで春の光が差し込んだように新たな息吹を感じています。

私が日頃担当している弊社の金沢支社管内(主に新潟県糸魚川市～福井県敦賀市)においては、北陸新幹線延伸に伴い並行在来線が第三セクターへ経営移管することとなりました。新幹線の延伸区間には令和時代にふさわしい新たな職場が産声を上げ、多くの労働者にとってもひとつの転機を迎えました。

金沢駅に往来する北陸本線在来特急の要であったサンダーバード号・しらさぎ号の最終列車の到着が3月15日深夜、翌16日未明には経営移管、そして延伸各駅で北陸新幹線の出発式という、時代のバトンが繋がれる一連の行事を職場で見守りました。夜が明ければ眩しいくらいの青空にブルーインパルスが新しい新幹線駅の上空で展示飛行をしてお祝いしてくれました。

タイトルの「繋ぐ、新たな時代へ」は、この経営移管に伴い114年の歴史に幕を下ろした金沢総合車両所が、閉所に向けて掲げていたスローガンです。金沢総合車両所は北陸エリアにおける在来線車両の検修の中核となる工場でしたが、新幹線開業に伴い同エリアの在来線規模が縮小するため、閉所に至りました。他にも在来線業務を行っていた乗務員・駅・施設系職場などの職場のいくつかが閉所となりました。そしてそれに伴い、多くの労働者が弊社内の他の職場に異動したり、グループ会社などに出向したりしましたが、中には退職を希望する労働者もいました。歳を重ねてからの異動や業務内容の変更は容易いことではありません。不安を抱えたり、順応できずに困っている労働者の声が私に届くことも少なからずありました。

3月16日。これまでの技術力を「新たな時代に繋ぐ」ために大きな転機を迎えた皆さんは、どんな思いでその日を迎えたことでしょうか。地域に光が差したことは、鉄道事業者のみならず多くの関係者の弛まぬ努力と苦労の結集です。しかし、光の差すところには自ずと影もできます。たとえこれまでの職場がなくなっても、労働者の職業人生は続きます。

春の光を反射して精悍に飛ぶブルーインパルスを眺めながら、“日向にも日影にも目を凝らし、働く人とその職場を下支えしていかなければならないな”と自分に言い聞かせていました。



閉所前の金沢総合車両所にて

医 部 会 新 任 幹 事 の ご 挨 拶



『幹事就任のご挨拶』

(関東地方会)

慶應義塾大学
医学部 衛生学公衆衛生学教室 飯 田 美 穂

このたび、産業医部会幹事を拝命いたしました、慶應義塾大学医学部の飯田美穂です。このような貴重な機会を頂き、ご推薦頂いた谷山佳津子先生に心より感謝しております。医部会運営に貢献するとともに、私自身の大きな成長の機会にしていきたいと考えております。不慣れで至らない点も多いかと存じますが、ご指導、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

私は2008年に慶應義塾大学医学部を卒業後、母校の産婦人科学教室に入局いたしました。産婦人科専門医を取得後、公衆衛生の勉強がしたいと大学院博士課程に進学し、本学会副理事長である衛生学公衆衛生学教室の武林亨教授のもとで、学位を取得いたしました。その間、時代は就労女性の健康支援への関心が高まりを見せ始め、産婦人科学教室の先輩医師からの紹介で、婦人科医として採用された企業の健康管理部門の一員に加わったことが、産業保健への入り口でした。臨床業務が少ない大学院在籍中に認定産業医の資格を取得し、嘱託産業医としてのデビューを果たしました。博士課程修了後も公衆衛生の分野でキャリアを積みみたいと考え、衛生学教室の助教のポストをいただき、疫学研究や学生教育に従事しながら、産婦人科医としての外来診療を継続しつつ、複数の企業の嘱託産業医として産業保健活動に携わり、現在に至っております。就労女性の健康に関する演題を発表させていただく中で、2021年より本学会の就労女性健康研究会の先生方にお声がけいただき、研究会での活動にも参加させていただいております。

プライベートでは、勤務医の夫と小学生の娘・息子がいます。保育園から毎月のように発熱で呼び出されていた頃に比べると多少楽にはなったものの、それでも不測の事態が同時多発的に発生し、毎日が綱渡りという日々がもう少し続きそうです。仕事との両立に苦悩することもあります。育児を通して忍耐力、段取り力、危機管理能力などが養われ人間的成長につながっていると感じ、また支えてくれている周囲に日々感謝しながら日々過ごしています。趣味は、旅行とピアノの弾き語りです。

まずは与えられた役割を全うしながら、幹事会の業務に慣れていきたいと思っております。また、幹事会の中では比較的若手であり、ダイバーシティの観点からも、多くの方々の意見が反映されるよう、努めてまいりたいと存じます。なにとぞよろしくお願いいたします。



旅行 (in ハワイ)



『幹事就任のご挨拶』

(近畿地方会)

大阪ガス株式会社 人事部安全健康推進チーム
Daigas グループ 健康開発センター

濱 田 千 雅

このたび、近畿地方会から産業医部会幹事を拝命致しました大阪ガスの濱田千雅と申します。このような貴重な機会を頂きましてありがとうございます。私は2年の研修後、現在の大阪公立大学医学部都市医学講座産業医学の大学院にお世話になり、職域(大阪ガス)のコホート研究(Osaka Health Survey)に従事させていただき、その頃に嘱託の産業医活動も始めました。その後、15年ほどは臨床医として主に病院やかかりつけ医という立場で医療に従事致しました。たまたま取得した労働衛生コンサルタントの資格をきっかけに前統括産業医であった岡田邦夫先生からお声かけ頂き、2008年から大学院時代からのご縁があった大阪ガスで専属産業医として従業員さんの健康管理をサポートさせていただくことになりました。専属産業医は数年のつもりが、岡田先生や豊川先生との一緒にお仕事させていただくのが、おもしろくて、気がつけば、16年が経っていました。

社会や技術が進んでいく中、多様な働き方が浸透し、健康管理においても個人の自律性がますます重要になっていると思います。一方、企業としては健康経営の観点からも人的資本投資が重要です。その中で私たち、産業医保健スタッフ自身の在り方が重要になってくると考えます。学会活動を通じて、皆様の産業保健活動にお役に立てよう精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



コスプレといわれる作業着



休日の姿



カザフスタンのウスチュルト台地にて



自転車 しまなみ海道の旅

医 部 会 新 任 監 事 の ご 挨 拶



『新監事就任のご挨拶』

(近畿地方会)

東レ株式会社 中 西 一 郎
滋賀事業場健康センター

この度医部会監事を拝命しました東レ株式会社滋賀事業場の中西と申します。以前に幹事をさせていただき今回は出戻りです。どうぞよろしくお願いいたします。

小生は引きが強いと自覚しております。小さなところではよく鳥のフンの直撃を受けます。例えば会社の駐車場で頭に直撃、旅先の露天風呂の寝椅子で寝そべっていて突然おなが熱い！と思ったら、白いものが...などです。大きなところでは赴任して初めての当直の日に病院が火事になりました。

さて、産業医のつながりについて少し。産業医大卒以外の先生は医局がないことが多いので周りに懇意な同業者がいない場合にはちょっとした相談などがしにくいと思います。香川医大卒の小生も30年前に関西の現所属に就職した際に相談相手がいないことが心細かったです。インターネットのない時代、近隣の専属産業医に手紙(！)を書いてお声掛けし、たまたま万有製薬が産業医を組織化するような試みをされていたのも追い風になり、他県でもあるようなアンオフィシャルな勉強会ができて心のよりどころになったことを思い出します。

現在は学会でも地方会でもおひとり様参加を狙ったイベント等が開催され、つながる機会は増えたように思います。皆様には是非そのようなイベントへ参加し、どんどん交流しネットワークを広げ、いろいろなやり方・価値観に触れることをお勧めします。「自分のところではこうだけど、そんな風にするのか...そんなやり方もあるのか」との気づきも多いですし、難解事例に悩んでいたとしても、自分だけじゃないんだと、立ち止まり悪いスパイラルに陥ることなく視野も広がる機会になると思います。またできれば学会の何らかの役をお引き受けになることをお勧めします。学会のイベントはお客で参加するのと何らかの形で運営にかかわるのとでは、後者のほうが圧倒的に得られるものが多いです。

多くの人にいろいろなイベントの運営の経験をしてもらう視点で一言。現状は運営のしやすさなどで知り合いに声をかけていろいろな役割が決まっていくことが多いように思います。そのメンバーはダイバシティの関係で性別や職種、年齢も幅広くなっています。参画の入り口部分も多様にして、例えばボランティアを募るかごとの手上げ制もあってよいかもしれません。



コスプレ好き

産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(2025 年 1 月～2025 年 4 月)

開催年月	主催・イベント名等			日時・開催地
2025 年 1 月		九州地方会	2024 年度九州産業 医部会研修会	2025 年 1 月 25 日(土) 13:00-16:30 TKP 博多駅筑紫ロビジネスセンター 会議室 301(福岡市) *オンライン(ZOOM)配信あり (2025 年 1 月 20 日[月])正午までの 参加登録が必要です)
2 月	第 29 回 産業医プロフェッショナルコース			2025 年 2 月 1 日(土)～2 日(日) MELONDIA あざみ野
	2024 年度 第 5 回幹事会			2025 年 2 月 16 日(日) 9:00-12:00 Web 開催
3 月		北海道地方会	第 27 回産業保健 研修会	2025 年 3 月 15 日(土) 13:45-17:00 北海道自治労会館 5 階 大ホール (札幌市)
4 月		東海地方会	2025 年度東海地方会 産業医部会懇話会	2025 年 4 月 19 日(土)14:00-16:50 ウインクあいち 1202 会議室 (名古屋市市中村区名駅 4 丁目 4-38) ※その後、親睦会を開催予定
	会報 第 83 号(2025 年 4 月号)発行予定			

内容等	その他
◇13:00-14:30 「産業保健の未来を共に創る～人間工学の最前線と新たな挑戦～」 講師：榎原毅 先生(産業医科大学 教授) ◇15:00-16:30 「産業保健に役立つ眼のはなし」 講師：村上美紀 先生(むらかみ眼科医院 副院長)	共催：産業医学推進研究会九州地方会・日本 人間工学会 協賛：日本産業衛生学会九州地方会看護部会・ 産業保健人間工学会・日本産業理学療法研究会 当日参加も可能ですが、 事前の参加登録にご協力 ください。配付資料は、 電子データで配布させて いただきます。 参加登録サイト https://sites.google.com/health-craft.com/ohseminar2025 
研修テーマ：医学部では教えてくれない！「協働」の極意 ◇1日目：2/1(土)13:00-17:45 I 講演・グループワーク 「ファシリテーション ～相手・関係者を巻き込み、合意に導くコミュニケーションスキル～」 講師：谷口学 先生(グロービス経営大学院/株式会社グロービス) 18:30ー 情報交換会(懇親会) ◇2日目：2/2(日)9:00-12:00 II 講義・グループワーク 「コンフリクト・マネジメント ～今日から使える対応術～」 講師：稲葉めぐみ 先生(元筑波大学附属病院 総合臨床教育センター プロジェクトマネージャー)	主催：日本産業衛生学会 産業医部会 後援：(一財)労働衛生会館 (申込は終了しました)
1「医師の過重労働対策-産業医実地臨床」 講師：中嶋義文 先生(三井記念病院 精神科 部長) 2「最近の労働衛生情報」 講師：加藤順一 先生(北海道産業保健総合支援センター)	最新情報については、日本産業衛生学会 北海道地方会の HP をご参照ください。
第1部：特別講演『産業保健と AI ～総論から実践まで～』 講師：内田満夫 先生(群馬大学) 第2部：産業医活動報告 報告1『産業医×オンライン』 講師：新井孝典 先生(株式会社なごや産業医事務所) 報告2『ゼロからの4年間～断らない、諦めない、そして得たもの～』 講師：井山裕子 先生(株式会社豊田自動織機) 『ヤマハグループの分散型事業所における産業保健活動』 (奨励賞受賞講演) 講師：山本誠 先生(ヤマハ株式会社 人事部 健康安全グループ)	※事前申し込み必要(先着 80 名) ・申込先：下記 QR コードまたは https://forms.office.com/r/9qDrfjQwvf ・参加費：本会のみは無料 ・申込期限：2025 年 4 月 12 日 ・問合せ先：koji.ishikawa.k2@mhi.com 

編 集 委 員 会 より お 知 ら せ

(1) 医部会報における二重投稿(著作物)の考え方

一般的に、新たな創作性の認められない ありふれた表現 歴史的事実やデータ 事実の伝達にすぎない報道等 法律や裁判所の判決等 などは著作物にあたらないとされています。したがって、編集委員会としては、他媒体に既掲載のものと言一句、同一の原稿は二重投稿と判断しますが、事実記載が一部同一であるだけでは二重投稿とみなしません。投稿者が判断に迷う場合は、申し出に応じて、編集委員会で個別に審議のうえ判断します。また著作物(文章・画像)を医部会報へ転載・引用する場合は、著作者の許可を得るか、引用を明記して、許可・引用の範囲内で適切に使用してください。

参考:(公社)著作権情報センター(CRIC) <https://www.cric.or.jp/qa/hajime/hajime1.html>

(2) 部会員からのお知らせコーナー ご活用ください

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や著書紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿(字数400字程度+写真1枚)をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

(3) 自由投稿を歓迎します

部会報は部会員の交流の場です。編集委員会として、より多くの皆様のご意見などを紹介したいと考えています。1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

(4) バックナンバーは産業医部会ホームページにて公開しています。

<https://sangyo-ibukai.org/kaiho.html>



(5) ご意見をお待ちしています

皆様のご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。

【事務局連絡先】(公社)日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール: sanei.4bukai@nifty.com TEL: 03-3358-4001 FAX: 03-3358-4002

[産業医部会会報編集委員会よりお知らせ]

産業医部会会報では、皆さまから「自律的化学物質管理」に関連する疑問や質問、コンテンツの要望などを受け付けておりますので、質問フォーム(URL/QRコード)からは是非お問い合わせください。

<https://forms.gle/tv9netbaBaYPW7q>



編集後記

専門医合格、各賞受賞された先生方、改めましておめでとうございます。

本会報が届く頃、世間では「今年の10大ニュース」など、年末恒例の話題が多く出ているかと思います。我が国では、能登半島地震に始まり、各種災害の発生が続いております。本学会でも災害産業保健研究会が立ち上がりましたが、筆者も別学会で素人レベルですが災害支援委員として関わっています。災害支援では、亡くなった方への悲嘆反応へのケア(グリーフケア)も求められます。それに関連し、私個人の今年1番大きな出来事は、パパ友2人の死でした。54歳、55歳、ともに発見されて1年未満の末期がん死でした。産業医として予防医学に携わっている中で、自身の管理下ではないものの、無力感に打ちひしがれました。自身がそんな状況のため、友人でもあるご遺族へのグリーフケア対応も難しいものと感じた次第です。

この年になると、一定数このような経験は避けられないものの、公私ともに「ポジティブ」「楽しく」をキーワードに過ごしていきたいと思います。

(石川 浩二)

編 集 委 員 会 委 員

池 上 和 範(桜十字福岡病院)

○石 川 浩 二(三菱重工)

谷 山 佳津子(OMNI産業保健サポート)

西 澤 依 小(JR西日本)

濱 田 千 雅(大阪ガス)

原 俊 之(北海道労働保健管理協会)

真 鍋 憲 幸(三菱ケミカル)

: 委員長、○: 第82号編集担当(五十音順)